

# 数量・図形の幼小架け橋期 カリキュラムのあり方

京都教育大学教育学部  
黒田 恭史

# アウトライン

- (1) 次期学習指導要領骨子
- (2) 横地清の保育の基本理念
- (3) 幼小架け橋期カリキュラムの提案
- (4) まとめ

# 主な審議事項

## 1 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方

- 生成AIが発展する状況の下、知識の概念としての習得や深い意味理解を促し、学ぶ意味や社会とのつながりが重要となる中、そうした授業改善に直結する学習指導要領とするための方策（特に、各教科等の中核的な概念等を中心に、目標・内容を一層構造化）
- 目標・内容の記載に表形式等を活用すること、学校種間・教科等間の関係を俯瞰しやすくすることのほか、デジタル技術を活用した工夫の在り方
- 重要な理念の関係性の整理（「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」、「学習の基盤となる資質・能力」等）
- デジタル学習基盤の活用を前提とした、資質・能力をよりよく育成するための各教科等の示し方
- 学習改善・授業改善に効果的な評価の観点や頻度、形成的・総括的評価の在り方（特に、「主体的に学習に取り組む態度」をはじめ観点別学習状況の把握をより豊かな評価につなげるための改善）

## 3 各教科等やその目標・内容の在り方

- 小中高等学校を通じた情報活用能力の抜本的向上を図る方策（生成AI等に関わる教育内容の充実、情報モラルやメディアリテラシーの育成強化を含む）
- 質の高い探究的な学びを実現するための「総合的な学習の時間」、「総合的な探究の時間」の改善の在り方（情報活用能力の育成との一体的な充実等を含む）
- 高等教育段階でデジタル・理数分野への学部転換等の取組が進む中での、初等中等教育段階における文理横断・文理融合の観点からの改善の在り方
- 生成AIの活用を含めた今後の外国語教育の在り方や、手軽に質の高い翻訳も可能となる中での外国語を学ぶ意義についての考え方
- 教育基本法、学校教育法等に加え、こども基本法の趣旨も踏まえた主体的に社会参画するための教育の改善の在り方
- 多くの教科・科目の構成の改善が行われた高等学校教育について、その一層の定着を図るとともに、職業教育を含めた今後の改善の在り方
- 特別支援学級や通級指導に係る特別の教育課程、自立活動の充実等を含む、障害のある子供の教育的ニーズに応じた特別支援教育の在り方
- 幼児教育と小学校教育との円滑な接続の改善の在り方、設置者や施設類型を問わず、幼児教育の質の向上を図る共通の方策

## 2 多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方

- 興味・関心や能力・特性に応じて子供が学びを自己調整し、教材や方法を選択できる学習環境デザインの重要性、デジタル学習基盤を前提とした新たな時代にふさわしい学びや教師の指導性の在り方
- 教師に「余白」を生み、教育の質の向上に資する可能性も含めた、子供たちの可能性が輝く柔軟な教育課程編成の促進の在り方（各種特例校制度等を活用しやすくすること、標準授業時数に係る柔軟性、学習内容の学年区分に係る弾力性、単位授業時間や年間の最低授業週数の示し方）
- 高等学校の生徒の多様性に応える柔軟な教育課程の実現のための、全日制・定時制・通信制を含めた諸制度の改善の在り方
- 不登校児童生徒や特定分野に特異な才能のある児童生徒など、各学校が編成する一つの教育課程では対応が難しい子供を包摂するシステムの構築に向けた教育課程上の特例等の在り方

## 4 教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合うことを含む、学習指導要領の趣旨の着実な実現のための方策

- 教育課程の実施に伴う過度な負担や負担感が生じにくい方策（学習指導要領や解説、教科書、入学者選抜、教師用指導書を含む）
- 現在以上に増加させないことを前提とした年間の標準総授業時数の在り方、教育課程の実施に伴う負担に留意した上での、現代的な諸課題を踏まえた様々な教育の充実の在り方
- 新たな学びにふさわしい教科書の内容や分量、デジタル教科書の在り方
- 情報技術など変化の激しい分野において、教師の負担軽減を図りつつ最新の教育内容を扱うことを可能とするための方策
- 各学校での柔軟な教育課程編成を促進し、多様な取組の展開に資する、教育委員会への支援強化、指導主事等の資質・能力の向上の在り方
- コミュニティ・スクールを含む地域や家庭との連携・協働を促進しつつ、過度な負担を生じさせずにカリキュラム・マネジメントを実質化する方策
- 学習指導要領の趣旨・内容について、保護者をはじめ社会全体と共有するとともに、学校種を超えて一人一人の教師に浸透を促す方法の在り方

# アウトライン

(1) 次期学習指導要領骨子

(2) 横地清の保育の基本理念

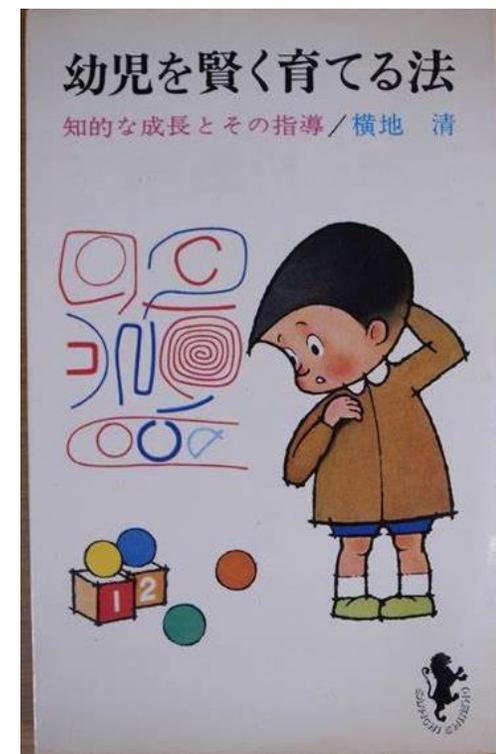
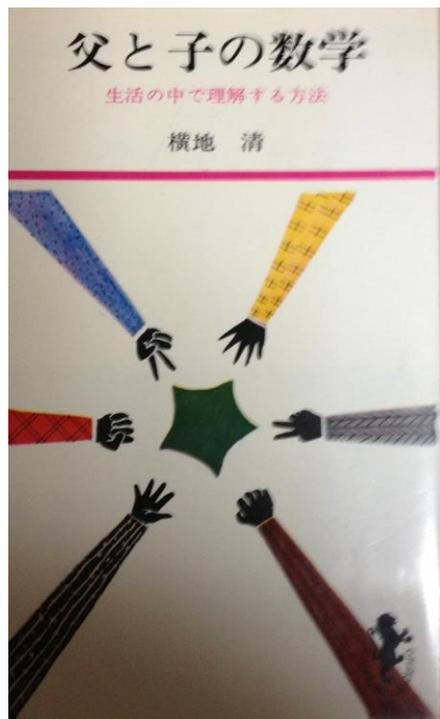
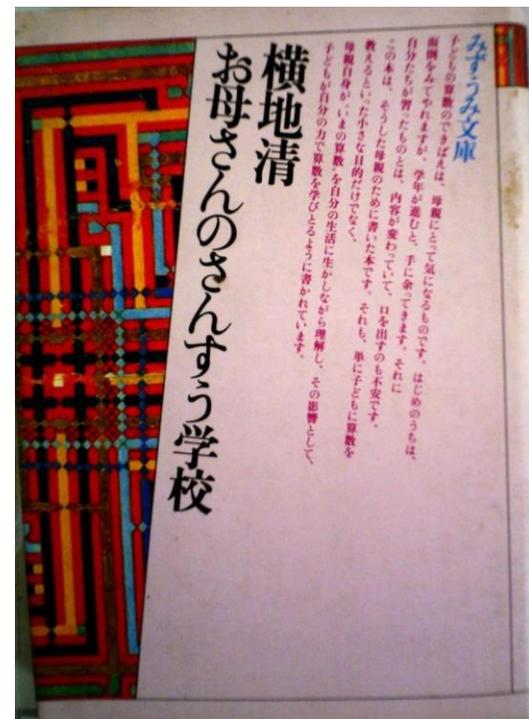
(3) 幼小架け橋期カリキュラムの提案

(4) まとめ

# 横地清の保育の基本理念

- 1) まず、**子どもには子どもとしての認識**とその発達の過程があるのです。おとなが、無雑作に、当然のように考えることも、子どもにはそうではないのです。
- 2) ある事柄の認識というものは、1日にして成る、というものではありません。認識されるべき事柄の中身が、**一歩一歩獲得**されていくのです。
- 3) ある事柄を認識するには、**発達の段階**というものが、かなりはっきりと存在することがわかったと思います。

# 横地清の幼児教育書



# アウトライン

- (1) 次期学習指導要領骨子
- (2) 横地清の保育の基本理念
- (3) 幼小架け橋期カリキュラムの提案
- (4) まとめ

# 幼児期の子どものおそび・生活

## 第2章 机上あそびと数量・図形の学びの芽生え

- 第1節 すごろくと数列
- 第2節 こま回しと円
- 第3節 折紙と図形
- 第4節 積み木と立体図形
- 第5節 お絵描きにおける3次元と2次元
- 第6節 人形作りと比
- 第7節 絵本よみと数・図形

## 第4章 自然物を使ったあそびと数量・図形の学びの芽生え

- 第1節 植物の成長と長さ・形
- 第2節 種の収穫と数の比較
- 第3節 土の中の収穫と体積
- 第4節 生き物の飼育と形・動き

## 第3章 身体を使ったあそびと数量・図形の学びの芽生え

- 第1節 かくれんぼと位置関係
- 第2節 砂場と変形
- 第3節 かけっこと速さ
- 第4節 プールと浮力
- 第5節 ジャンブルジムと空間図形
- 第6節 シーソーと重さ
- 第7節 じゃんけんと確率

## 第5章 食事と数量・図形の学びの芽生え

- 第1節 配膳と位置関係
- 第2節 お菓子の分割と分数
- 第3節 スープと温度
- 第4節 食材と図形

### 1 3. 小学校算数科への架け橋に向けて

#### 2 3.1.じゃんけんと確率

3 じゃんけんは、子どもたちの様々な活動を支えていく上で、なくてはならな  
4 い活動です。勝ち負けを決めるだけでなく、順番を決める、仲間に分けるなど、  
5 集団活動になった場面で、様々に必要とされます。

6 じゃんけんにひそむ算数的要素には、場合の数や確率などについて理解する  
7 活動があります。

8 6年生では、場合の数について扱います。2人でのじゃんけんで考えると、  
9 Aさんが「グー」を出した場合、Bさんは「グー」「チョキ」「パー」の3通  
10 りとなります。同様に、Aさんが「チョキ」の場合も3通り、Aさんが「パー」  
11 の場合も3通りとなって、全部で9通りとなります。このうち、Aさんが勝つ  
12 のは、「グー」対「チョキ」、「チョキ」対「パー」、「パー」対「グー」の  
13 3通りとなります。同様に、Bさんが勝つのも3通りとなります。残りの3通  
14 りは、「グー」対「グー」、「チョキ」対「チョキ」、「パー」対「パー」の  
15 引き分けの場合となります。つまり、Aさんが勝つ、Bさんが勝つ、引き分け  
16 るがそれぞれ3通りずつとなって、確率はいずれも1/3となるわけです。

17 3人でのじゃんけんでは、さらに複雑になります。Aさんが出すのが「グー」、  
18 チョキ、パー」の3通りで、BさんもCさんも同じく3通りなので、全部で3  
19 ×3×3=27通りとなるわけです。その内、Aさんだけが勝つのは、「グー」  
20 対「チョキ」対「チョキ」、「チョキ」対「パー」対「パー」、「パー」対  
21 「グー」対「グー」の3通りとなります。同様に、BさんやCさんが勝つのも  
22 それぞれ3通りとなって全部で9通りとなります。次にAさんとBさんが同時  
23 に勝つのは、「グー」対「グー」対「チョキ」、「チョキ」対「チョキ」対  
24 「パー」、「パー」対「パー」対「グー」の3通りとなります。同様に、Bさ  
25 んとCさん、CさんとAさんが勝つのもそれぞれ3通りとなって全部で9通り  
26 となります。最後に、引き分けは3人が同じものを出す場合の3通りと、3人  
27 がそれぞれ違うものを出す6通りとなって全部で9通りとなります。とても複  
28 雑ですが、ここでも3人が公平な関係になっているわけです。

### 1 3.2.じゃんけんと小学校算数科との架け橋

2 じゃんけんは、教科の学習というよりも、むしろ生活や遊びの一場面に必要な  
3 ツールといえますが、算数科においては、「場合の数」や「確率(実際には  
4 中学校数学)」の学習に関連するものといえます。

5 そのため、幼児期段階のじゃんけんの活動では、次のような点に留意するこ  
6 とが大切です。

7 まずは、2人でのじゃんけんに慣れさせます。じゃんけんによって勝ち、負  
8 け、引き分けの3種類があり、それぞれ等確率(不公平はない)であることを  
9 体験から感じさせることです。私は「グー」が好きだからということによって、  
10 「グー」が勝つ場合が多い(確率が高い)といったことが起こるわけではない  
11 というように、少しずつ感情と確率をわけて考えることができるようにするこ  
12 とが大切です。

13 次に、3人のじゃんけんに慣れさせます。2人の場合と違って、勝つ場合に  
14 おいても、1人だけが勝つと、2人が勝つの2通りがあります。また引き分け  
15 の場合においても、3人が同じ「グー」と、3人が「グー」「チョキ」「パー」  
16 の2通りがあります。このように、非常に複雑な関係性を理解するとともに、  
17 その中にあっても、それぞれ等確率(不公平はない)であることを体験から感  
18 じさせることです。

19 最後に、多くの子どもでのじゃんけんに慣れさせます。例えば10人の中から  
20 1番目にくじを引く子どもを決める場面を設定します。この場合、10人で一度  
21 にじゃんけんをすると、引き分けが続いてなかなか決まりません。そこで、2  
22 つのグループに分かれてじゃんけんをするといったことを行いますが、この場  
23 合も、できるだけ同じ人数に分かれるようにします。すなわち、5人と5人に  
24 分かれてじゃんけんをすることが、公平であることに気付かせます。これを、  
25 8人と2人に分けてしまうと、8人の方ではその中で1番になるのが1/8で、  
26 2人の方では1/2となって、確率が不公平になってしまいますので、こうし  
27 たことへの意識も経験を通して捉えさせていくことができればと思います。

子どものあそび・生活から  
学びの芽生えを探る

ぴーちゃん先生

おしび de さんすう

すじろく

京都教育大学 教授 黒田恭史



# アウトライン

- (1) 次期学習指導要領骨子
- (2) 横地清の保育の基本理念
- (3) 幼小架け橋期カリキュラムの提案
- (4) まとめ

# まとめ

- 1) 幼児期の子どもは**あそび・生活**から学びの芽生えへと発展
- 2) 幼児期の子ども**のあそび・生活**から**学びのエッセンス**の抽出
- 3) 小学校算数科の授業は、幼児期の**あそび・学び**を下支えに構築
- 4) **教員と保護者**を交えた幼児教育の可能性の追究